

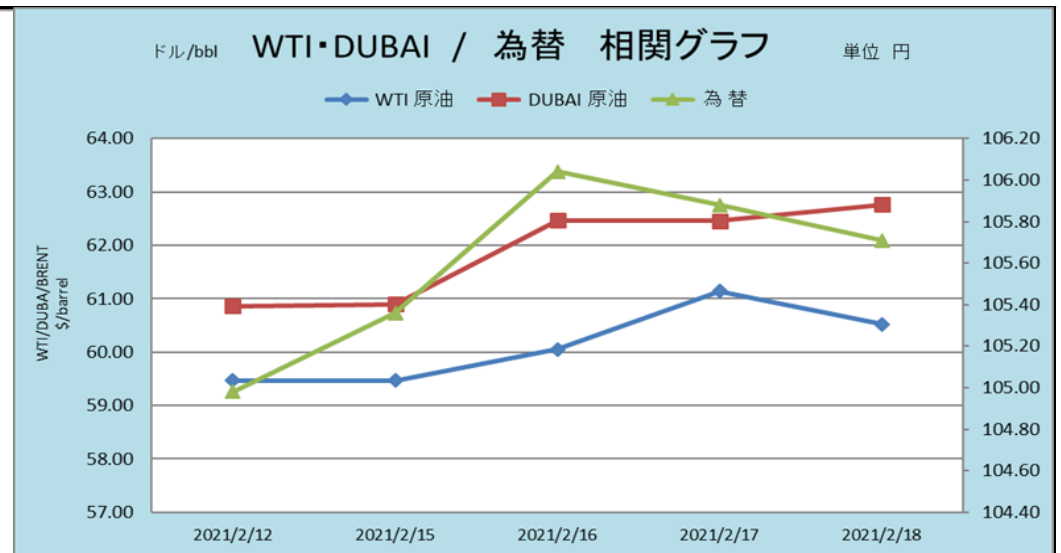
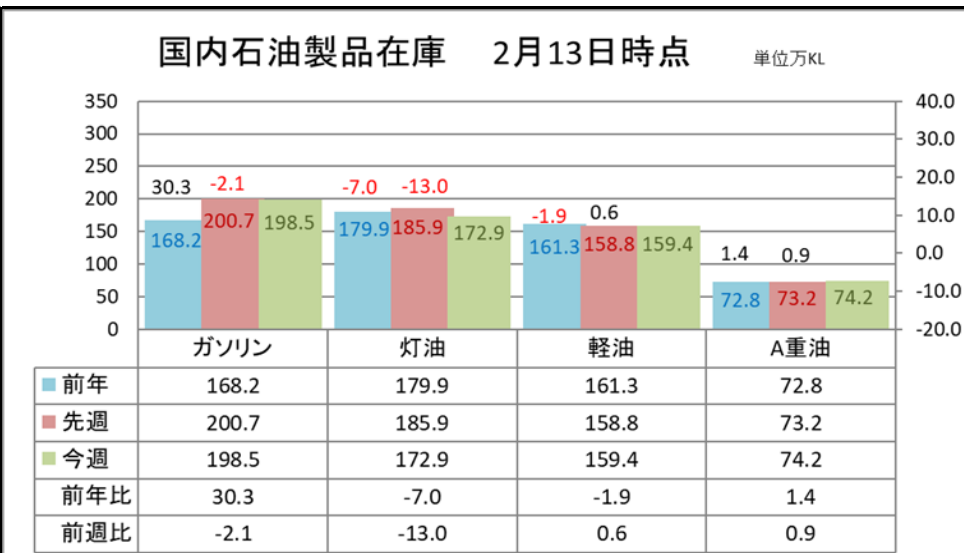
イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/2/19作成 (株)新出光

【概況】 <高値警戒感から一時下落>

- 12日、OPECが主導する協調減産合意が高い順守率を保っていることや、サウジアラビアによる自主的な追加減産を材料に相場は続伸していましたが、OPECが月報で今年の世界石油需要見通しを日量10万バレル程度下方修正したほか、国際エネルギー機関(IEA)も世界の石油供給量は依然として需要を上回っていると指摘したことで調整売りとなりました。
- 13日、バイデン米大統領が掲げる大型追加経済対策の実現期待や新型コロナウイルスワクチン普及による経済正常化への思惑が、投資家のリスク選好意欲を支えています。外国為替市場でも、ドル高・ユーロ安の動きに歯止めがかかり、ドル建てで取引される商品の割高感が後退したことも、原油買いを支えたようです。
- 16日、米テキサス州では先週末からの3連休中、異例の厳しい寒波に見舞われ、エネルギー各社は石油施設の稼働停止などを余儀なくされ、供給に悪影響が出るのではないかと懸念から原油が買われました。また今週発表する週間在庫統計で原油在庫の減少が見込まれていることも上昇の支援材料となっています。またサウジアラビア主導の有志連合軍が14日、イエメンのイスラム教シーア派武装組織「フシ派」がサウジに向けて発射した2発の爆発物を破壊したと発表したことを受けて、地政学的リスクへの警戒感からも原油が買われました。
- 17日、米国の主要な石油関連施設が集積するテキサス州は前週末、歴史的な寒波に見舞われ、エネルギー各社は製油所の稼働停止や天然ガスパイプラインの操業制限を実施しました。国内全体の少なくとも5分の1の製油能力が打撃を受けたことを受け原油相場は朝方にかけて一段と上昇し、一時WTI原油で61ドル台を付けました。
- 18日、原油相場は約1年1カ月ぶりにWTI原油で60ドルの大台を回復した後も上値を試す展開となり、一時62.26ドルまで上昇しました。しかし、この日は米景気回復期待や米テキサス州の寒波の影響による供給懸念などを背景とした買いの流れにひとまず一服感が広がり、利益確定の動きや高値警戒からの売りが活発化しました。

2月19日 | 17:00現在 | WTI原油 | 59.45ドル | 為替 1ドル | 105.62円



	次回元売変動予測	
	2/25~	元売変動予測
ガソリン	➡	+1.0~+1.5
灯油	➡	+1.0~+1.5
軽油	➡	+1.0~+1.5
A重油	➡	+1.0~+1.5
LSA	➡	+1.0~+1.5

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】 <今後の市況上昇見込めず>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+1.5円」の値上げでした。コスモの改定日のズレや月間リンク玉での対応により、市況の上げ幅が抑えられ、コスモの仕切りが上がるも、そのままの相場観で業者間取引が続いている状況です。

《2月20日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「+1.0~+1.5円」の値上げ予測です。ただ調整金の+0.5が仕切りに加味されれば、「+1.5~+2.0円」になる可能性もあります。原油相場は高値警戒感から調整の売りが出てきており、それに伴って販売市況の下げ圧力も強まっているように感じます。次週の元売り改定も円単位での値上げが考えられますが、月間平均玉の仕入れ価格もおおよそ定まってきましたので、仕切り改定による市況の上昇はあまり期待できない状況となりそうです。来週エリアによっては20℃近くまで最高気温が上がるとの予報もあり、各地灯油の消化売りを急いでいるディーラーが散見されます。また来週末における3月月初分の販売につきましては大幅なりセット値上げになると思われるので、価格提示には注意が必要となりそうです。

【トピック】 <地震による製油所への影響>

13日23時頃に福島県沖を震源地とした強い地震により、京浜・東北エリアの製油所での稼働に影響が出ているようです。ENEOSは仙台製油所で全装置緊急停止しました。陸上出荷は再開されていますが、一部流動点の高い重質油は出荷設備内で固まり、出荷ができなくなっている模様です。根岸製油所でも一部装置が停止し今も稼働を見合わせています。出光興産は停電により千葉製油所と東亜石油の京浜製油所の二次装置が停止しました。京浜製油所は稼働を再開しておりますが、千葉製油所はまだ再開の目処が立っていないようです。コスモ石油の各製油所は特に異常なく通常どおり稼働しています。稼働停止による需給への影響は今のところ出ていない様子ですが、この状況が長引くことになれば、市況への影響が出てくる可能性も今後ありそうです。